

番号	課題	これまで取り組んできた内容 実例等		取り組みの状況		何が必要とされているか	キーワード
		【取り組み主体】	【課題に対するこれまでの対応】	【長所】	【短所】		
1	新しい住宅地 新住民	自治会員	住民同士のつながり作り 親睦 交流を中心に会員の声から年間行事づくり	誰でも参加できる 夫婦での参加が多い 助け合い	年代のかたより 次世代交流がない	次世代との接点がないので、子どもたちを通じた接点(交流)が必要	交流
2	団体間の連携	環境美化を進める共生の会	公共施設での月1回の勉強会	団体とは別に個人的にEMに対する興味を持ち、生ゴミのリサイクルをする人は増えた	団体間の連携がない為、同じような運動している人たちとの交流がない	他の団体との積極的な交流 同じ活動をしている団体との情報交換 勉強会を行政側主催になると参加者が多くなる	交流 情報連携体制
3	地域交流	育てる会 南山わんぱくキッズサポーター スクールガード	交流の場所を設ける あいさつ	富里全地域を対象に話しをする場所を設けたり市内のバスツアーを開催してお年寄りができる 子供達とのふれあいや子育てを通じてアドバイスが出来る 下校時刻にあわせて、お迎えに行き、自分の住む地域にいる子どもたちの名前と顔を覚え、防犯につながる	お年寄りが自力でこれない 送迎が必要 協力が欠けている 協力が欠けている	交流の場があっても、送迎が必要な方が多い 小学生の親の協力性が欠けており、他人まかせの方が多	担い手拡大
4	環境美化	育てる会	環境課主体のアダプトに加盟し、福祉センター前の道路のゴミ拾い 温暖化防止でサンパチェンス普及のアピール	ゴミの散乱が少なくなった 地球温暖化防止に優れた効果がある	タバコのポイ捨てが減らない 福祉センターの植込みの中にゴミが多く捨てられている 知らない人のほうがまだ多い	モラルを持った大人への教育 興味を持ってもらえるようなアピール	啓発 啓発
5	地域特性	子ども会育成会 小中学校PTA	行事への参加の声かけ 行政への協力の依頼 父親の手伝いをお願い	組織として確立されたものがある 学区単位のため、範囲が決まっているのでまとまりやすい	横のつながりというか富里地域全体で行動する機会が少ない 仕事をしている人が多く、協力してくれる人が限定されてしまう	小さな子どもからお年寄りまでが参加できるイベント	担い手拡大
6	地域の手助け活動の制約	自治会員 民生委員	自治会の個別折衝により民生委員候補者を推薦 委嘱民生委員へ活動のすべてを一任	自治会より適材の人選が行われてきている 個別声かけに手助け対象者から信頼感を得ている	今後の民生委員担い手発掘が難しい 推薦した後の具体的協力・支援方法が難しい 活動に個人情報守秘義務が課され、自治会との連携が難しい 精神的・時間的な個人負担の割合が大きい	市、自治会、民生委員の協働をはかり、安全、安心なまちづくり活動(福祉 防犯 防災)を地域ぐるみで行う公的な態勢の構築を図る	連携体制
7	担当範囲が広く住民を把握できない	民生委員	地区社協で行っている、子育て支援(子育て交流会)や、敬老お茶飲み会などをやり、地域の人と顔見知りになる	就学前の年齢の子供は今まで見えていなかったが、交流会を通し、親子共に顔見知りになった 地域交流の場は利用者の方もストレス解消できる場所になっている 活動の回数を増やしたことにより、他の団体との連携がスムーズに取れるようになった	敬老お茶飲み会においては、高齢者が増え場所(会場)が狭くなってきた	地域で民生委員が主になり、住民ともっと積極的にふれあう機会や場づくりをする	交流
8	担当範囲が広く住民を把握できない	民生委員	他の団体との連携による活動の場でPR 地区だよりを発行し、地区回覧で活動の紹介	学校行事や地域行事の積極的参加により民生委員が知られてきている	無償のボランティアに対する住民の意識の違い 個人情報の取り扱い方や、守秘義務など責任が重い 民生委員は個人的に様々な職務を兼任している人が多いので、長く続ける人が多くなってきている	民生委員のやりがいや、地域の様々な情報がよく分かるメリットなどをもっと知ってもらう機	啓発
9	「集うきっかけがない」地区スポーツ大会	自治会	毎年の夏の活動としての確立(本年度で22回 15回市教育委員会表彰 毎年8月最終日曜日に実施) 全世帯参加対象 実行委員会(区長、班長が主体)(青少年相談員) 子供たちと一緒に楽しめる軽スポーツを取入れた	自治会、住民 軽スポーツを通し住民の交流の場となる 防犯対策 新住民の紹介の場(結婚 出産など)	役員になっていないと不参加になることがある 自治会の未加入者に対する対策がない	自治会活動を新規住民に知ってもらうことで参加メンバーを増やす 他の地区との交流	担い手拡大 交流
10		スポーツ団体	組織を明確にし、団体活動の協力・信頼 市内、他市町村との横のつながり	自分の好きな事なので運営に協力的であり、団体の連携やまとまりがある	限られた人の参加のため、スポーツ人口が増えない	若い世代から年配者でも楽しめるよう活動、内容等を構成する	担い手拡大

番号	課題	これまで取り組んできた内容 実例等		取り組みの状況		何が必要とされているか	キーワード
		【取り組み主体】	【課題に対するこれまでの対応】	【長所】	【短所】		
11	ボランティアの担い手不足	ボランティア連絡協議会 ボランティアセンター	広報「ささえ愛」での呼びかけ ボランティア連絡協議会主催の交流会でのお願い 体験ボランティアを行う	「助けられ上手・助け上手」ゲーム感覚でボランティアを体験してもらっています これなら出来るという声が聞かれた	ボランティアはじめの一步を踏んでもらえない	他の団体との連携を大事にしていきたい ボランティアセンターの職員の体制に問題がある 1000件の依頼調整及び担い手との面談には常時2人は必要	交流 連携体制
12		富里高校野球部OB会 4年前に発足 現役部員への寄贈品 大会応援の呼びかけ レクリエーション(草野球)の開催	毎年卒業する生徒へOB会の説明と勧誘 役員全体で普段から自分の持つ人脈を活かす会の活性化を目指す	ここ十数年現役部員への支援は絶たれていたが、会の発足を機に“野球部OB”としての自覚が芽生え現役部員への“手助け”をする事で部員は勿論、現役監督とも交流が生まれた 野球部員としての現役生活は前後3年間の人脈だったが、会へ参加する事で世代を超えた交流が生まれた	“やる気のある者”が発足し役員を担い呼びかけをしているので一般会員との“温度差”が生じている 中心人物となる役員数名が30代の為、仕事・家庭との両立が厳しい 一般的に“OB会”として機能していない 役員会議を頻繁に行うが会議への出席率が低い	10代 20代というのは、どうしても“選手達を支援する”という意識は低い しかし、引っ張っていかねばならない30代の人間も仕事 家庭そしてOB会との両立は難しく、ここ2年間は道筋が見えなかったが「OB会年間活動計画表」を作成した事で一年間の行動の“目安”が出来た あとは各個人の「会」への意識の向上、そして会員として役員としてOB会をどうしていきたいか・何をしたいのかを“考える”事がもっとも重要な事だと思う	啓発
13		消防団	団員の勧誘	地域の家族構成がわかる 入団することにより地域に対する消防の重要性が理解できる	必要な団体ではないと考える人が多く団員に新しく加入する人も少なく住民の人が協力的でないと感じられる事が多々ある 特に消防団適齢期の子息をもつサラリーマンの子息や自営業者など 操法大会などで何カ月も練習をするために協力してくれる他の消防団の人達への謝礼も消防団員の寄付で賄っているのが現状であり一般家庭に寄付のお願いにまわるとそういうことをするなら消防団は必要ないと心ない言葉を返す家庭もある	必要な団体だと云う事の啓蒙活動	啓発
14		商店会	地元商工業者(業社、商店)の活性化、後継者の育成など	普段交流のない経営者の人達と交流ができる	各社、各店の一同に集まれる時間帯がなかなかうまく調整することが難しい	イベント等を行う為に仕事を中断する決断ができるかどうかということ	時間
15	若い方の活動参加	NPO富里のほたる	会報(パンフレット)を図書館・公民館等に置く 会員・理事から口コミで行事を知らせる	県の活動に参加するようになった 成田里山の会 他、他の会と相互の交流が出来た	草刈作業や実働には、なかなか若い人の参加がない		担い手拡大
16	財政的支援について	富里国際交流協会	市民の文化活動への参加は、大きな楽しみであると同時に市民の生き甲斐や、地域活性にも繋がる大切な活動であると考えております 富里市は国際交流協会の活動に対し理解と支援をしてくださっております	市予算より補助金を頂戴することは、大きな助けでもあり、また、会への公的認知はボランティア活動上の大きな支えにもなります	市の補助金が入る事により、会計処理も市予算に準ずる規範が適用されるため、事業規模の拡大や事業の多様性の側面とそぐわない面も多々見受けられます	補助金の新制度策定に際しては、活動上の資金確保および予算会計ルールの新しい定めについても助案の必要があると思われ 公正さと柔軟さを兼ね備えたルール策定がのぞまれます	制度
17	プール開放について	学区ボランティア	日吉台学区において夏休み期間中のプール開放を提案し学区ボランティアが管理実施		万一の事故に際しての責任所在のあり方について行政側と紛糾	地域スポーツ振興、学区内ボランティア等でPTA、自治会などで子供達への活動取り組みに際して、事故対応などの公的責任の所在が明確に要望されるが、現在の枠組みでは整合性が認められない	制度
18	安心して住める環境づくり	区会(自治会)	地域犯罪抑止の防犯活動 小学生の登下校時の犯罪・事故防止 活動協力者の勧誘	地域住民の防犯への意識変化 軽犯罪被害の減少	活動協力者の高齢化	行政 警察等との連携の強化 犯罪情報の公開 他地区との交流を図り、志気高揚を高める	連携体制 情報 交流
19	組織の運営	自治会(南七栄区)	役員枠の拡大と分担責任の明確化	役割分担を明確にすることで、効率化が図られ役員を多くしたことで回りが速い(功罪両面)	役員を多くしたことで回りが速い(功罪両面)	対外業務の増大に関らない足元への目配り 役員を多くしたことの功を拡大し罪を縮小する努力の継続	育成 継続
20		富里第一小学校区協議会		学区活動を通じた人脈の広がり 学区活動を通じて自区の運営に役立つ情報 学区活動を通じた住民同士の交流拡大		区長が大切な仕事を果たしていることを地区住民へ知らせること 団地地区自治会におけるリーダー後継者難 地区別温度差の底上げ	情報 担い手拡大 啓発

番号	課題	これまで取り組んできた内容 実例等		取り組みの状況		何が必要とされているか	キーワード
		【取り組み主体】	【課題に対するこれまでの対応】	【長所】	【短所】		
21	組織の運営	富里市区長会	市内76行政区を4部会に分割,16名で理事会を構成	富里市区長会活動を通じた人脈の広がり 富里市区長会活動を通じて自区の運営に役立つ情報の入手 区長(市政協力員)の地位認識の向上	経験,熱意の温度差がもたらすもの	区長が大切な仕事を果たしていることを地区住民へ知らせること 団地地区自治会におけるリーダー後継者難 地区別温度差の底上げ	情報 担い手拡大 啓発
22		自治会(南七栄区会)	自治会加入の仕組み,会費集金の仕組みなどについて,ルール化など	区長管理対象者は現在1世帯のみになった 正常納付者からの「不公平!」の声を聞かなくなった AP管理者からの滞納金徴収も一通り終わった	APは出入りが頻繁でリアルタイムでの捕捉管理が難しい	貸家,APの所有者の把握と自治会方針の伝達 仲介業者(ネットワーク)への自治会方針の周知	情報 情報
23	安心して暮らせるまち	自治会(南七栄区会)	自主防犯パトロール隊設立,夜間を含む防犯パトロール実施 昨年度後半から理事の夜間パトロール参加を呼びかけた	区内の犯罪及び不安事件が急速に激減した 住民の団結力が向上した 警察行政との連携が緊密化した 千葉県公安委員会から「地域防犯情報センター」の指定を受けた	特になし	活動費不足 活動の継続(担い手の補充)	資金 担い手拡大
24			登下校児童の安全見守り活動	活動者(大人)と児童との信頼関係構築 地域と学校との意思疎通と信頼関係の向上	特になし	活動費不足 活動を引き継ぐ人	資金 担い手拡大
25			防災訓練実施 住宅用火災警報器普及啓蒙 千葉県婦人防火クラブ連絡協議会活動への参加	毎年実施することで救命法や消火器使用法 住警器普及活動に助成金が出た(区内現在普及率14%以上) 研修や行事には毎回積極的に参加	若手(特に男性)の関心が低い 可搬式ポンプなどの機材が老朽化陳腐化して使い物にならない	最新機材との入替え(所有機材は市からの貸) 防災組織の再編成	資金 組織
26		富里第一小学校区	自主防犯パトロール隊設立,犯罪抑止活動実施 夏祭り時の地区青少年相談員の防犯パトロール	学区内犯罪及び不安事件抑止に寄与 学区の団結力向上	特になし	活動費不足 活動の地域温度差の底上げ 活動の継続(担い手の補充)	資金 啓発 担い手拡大
27			登下校児童の安全見守り活動	活動者(大人)と児童との信頼関係構築 地域と学校との意思疎通と信頼関係の向上	地域の温度差が大きい	活動費不足 活動の地域温度差の底上げ	資金 啓発
28	きれいなまち	自治会(南七栄区会)	空き地の投棄物やポイ捨てごみの徹底回収 篤志家の道路美化奉仕作業を奨励支援 会議や広報,回覧等で住民へ啓蒙を続けた	住民意識が向上しほぼ完璧に近い状況が保たれるようになった 篤志家の奉仕は毎朝の活動として定着した	なし	篤志家を見習う後継担い手の発掘	担い手拡大
29		富里第一小学校区協議会	秋のごみゼロ活動	秋のごみゼロ運動は全市の学区活動として定着しつつある	決まった場所への不法投棄は少なくなったがまだ発生を見る	決まった場所への監視カメラ増設	設備
30	心の通い合うまち	自治会(南七栄区会)	広報や理事会を通じての呼びかけ 子どもたちへは,登下校見守り活動時などを通じて指導した	住民からも「挨拶を」との声が上がるようになった 知らない人にも挨拶することは不審者への牽制につながる 知らない同士会話のきっかけづくりから交流へとつながる	なし	地域づくりは挨拶から 挨拶の出来ない人をつくらぬ努力	啓発
31		富里第一小学校区協議会	GF大会 生き生き交流会など交流の機会を意識的に利用 学区役員だけでなく,一般参加者へも積極的にあいさつ	相手の方から挨拶を受けることが多かった 確実に交流ふれあいの輪が広がっている	なし		

番号	課題	これまで取り組んできた内容 実例等		取り組みの状況		何が必要とされているか	キーワード
		【取り組み主体】	【課題に対するこれまでの対応】	【長所】	【短所】		
32	心の通い合うまち	富里第一小学校区協議会	子ども 地区の夏祭りを開催 高齢者 「生き生き交流会」開催 第一小学校「昔の遊び教室」に参加、先生役を担った ごみひろいなどの環境美化に主役となる地区もある バス旅行に隣接地区同士が誘い合った	夏祭りや各種行事への参加を通じて保護者の関心も高まる 高齢者活動を通じて地域間交流が高まった 学区の全体活動により地域 住民 学校相互に良い刺激となる	育成会 限られた人以外には保護者の熱意が今ひとつ	熱意あるリーダーの存在 形式的なしばりの取り払い 市に登録すると役員が回ってくるからイヤの声もある	担い手拡大
33		自治会(南七栄区会)	自主回覧及び各戸配布物の作成配布 広報紙「WAHHA」の発行(毎月第二水曜日発行) 掲示板整備活用(4ヵ所) 福祉回覧は流動的に対応(原則資源物回し)	行政回覧や周知事項の補完的役割を果たす 自治会や学区の行事や活動を的確に伝え参加を促す効果がある 身近の事件や事故,これに対する注意など即時に伝わる 自治会の方針や進捗をつぶさに伝えることで理解協力を結びつく 口コミだけの誤解 曲解で伝わる弊害をなくせる 交流の少ない住民にも同じ情報が同時に伝わる	編集,印刷の手間と費用 配布担当者が忙しい	コスト削減に結びつく印刷機器の導入 人材(取材編集担当)	設備 担い手拡大
34	モラルの高いまち	自治会(南七栄区会)	自粛の啓蒙を繰り返しながら自治会駐車場をつくった STEP - 1 協力の呼びかけ(自他の駐車場利用) STEP - 2 指導票(注意指導の強化) STEP - 3 警告票(自治会としての警告) STEP - 4 成田警察署 富里市 交通安全協会の警告票 STEP - 5 警告票(警察へ取締りを要請する予告) 借家は,仲介業者の問合せ時に路上駐車厳禁を求めている 警察へ何度も取締りを要請し続けている 借家は,仲介業者の問合せ時に路上駐車厳禁を求めている 警察へ何度も取締りを要請し続けている	取り組み前平均220台 20年4月頃15台まで減少 「やればできる」の評価が高まった	反発,抵抗が多い 事柄上,指導活動に自発的に協力を申出る人が出てこない 1年間指導を緩めたとたんに元へ戻る現象が借家やAP,新規転入者への徹底が巧く行かない傾向 身勝手な常習行為者があり,類を呼ぶ存在となっている 行政の姿勢が極めて消極的	警察の指導取り締まり(自治会には法的権限がない) 道路管理者の市の指導(歩道損傷の大きな原因となっている) 何らかの有効な条例の研究制定 市民 特定の人への行政権限の委嘱 付与等 行政 排除 罰金その他	ツール